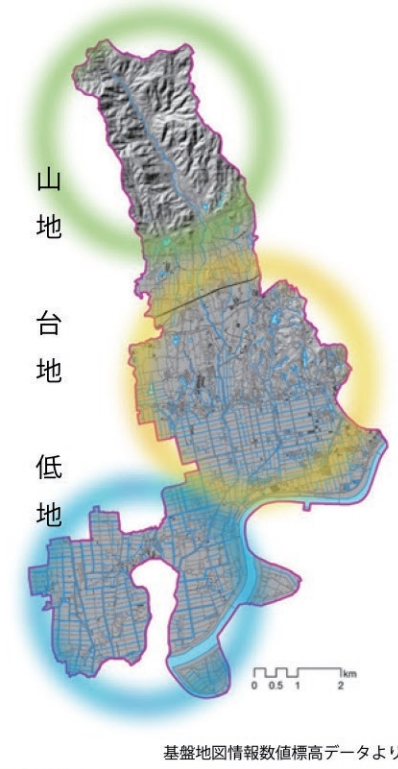




みやき町 フットパス

～寒水川上流域編～



寒水川上流域の風景

みやき町を南北に縦断する寒水川は、筑後川に合流し、有明海へと流れ込んでいます。その寒水川の上流域は、旧中原町に属し、脊振山系の山麓に位置しています。みやき町は北側から山地、台地、低地の3つの地形区分に分けられますが、その中で寒水川上流域は山地と台地に位置しています。そのため、山里の風景と台地上の平坦な地形を活かした田園の風景を味わうことができます。また、「風の神様を祀る」綾部八幡神社があったり、旧長崎街道や JR 長崎本線が地域を横断していたりと、居住と移動の拠点でもあります。このように、農的な風景と都市的な風景が混在しているのが寒水川上流域の特色です。何気ない風景かもしれませんが、目を凝らすと、地形や歴史に裏付けされた興味深い風景が広がっています。

寒水川上流域の水路

みやき町には無数の水路が張り巡らされています。佐賀平野の一端を担うみやき町では水の確保は最重要課題であり、寒水川上流域は水利社会上極めて重要な地域でありました。何故なら、台地上に位置する旧中原町の水路のほとんどは、寒水川や同地域の溜池を水源としているからです。寒水川上流域の水路に目を凝らすと面白い発見があります。例えば、山田地区にある一の瀬井堰は、寒水川より東側にある台地上水路(築原・中原水道)の取水口であり、水量を調節するための置石が興味深いです。また綾部地区には、流れの向きが異なる水路が道の両脇に流れているところがあります。これは水源が違うためであり、かつての水路システムの複雑さを物語っています。さらに、ホテルの貴重な住処となっているなど、寒水川上流域の水路には生活・産業用水の確保の他にも様々な役割があり、風景を構成する重要な要素となっています。



山田ひまわり園



山田地区の棚田を利用して10月と11月に開園します。「秋に咲くひまわり」が話題を集め、現在では来園者が2万人以上となり、みやき町最大の観光スポットとなっています。寒水川を挟んで檀山の真正面にあるため、両者のコントラストを味わうことができます。※運営：中山間地山田集落組合 詳細はみやき町観光協会 HP へ

みやき町 フットパスについて

「フットパス (footpath)」とは、魅力的な風景を歩いて楽しむための小路のことであり、イギリス発祥の散策文化です。このたび、地域の皆さんや来訪者にみやき町の魅力的な風景を味わって貰うために、地元の市民団体の協力を得て本マップを制作しました。今回は寒水川の上流域を対象範囲としましたが、ゆくゆくは中流域、下流域へと対象範囲を広げていく予定です。なお、設定したコースは全て公道ですが、散策者は、以下の点に気をつけてみやき町の風景を楽しみましょう。

綾部八幡神社



綾部八幡神社は、鎌倉の鶴岡八幡宮の分霊として創建されました。麻旗を神木の太いチョウに掲げて、その年の天候を占う「旗上げ神事」が毎年7月15日に行われており、日本最古の气象台としても著名です。参道脇には、「綾部のぼた餅」のお店が2軒あります。



- ①道から外れ、田畑や樹林、私有地などに立ち入らないようにしましょう。
- ②ゴミは各自で持ち帰りましょう。
- ③草花を勝手に採取するのはやめましょう。



寒水川上流域と榎 (ハゼ)

「♪高くさやかに空澄みて 秋は錦の榎もみじ」。地元の中原小学校の校歌にあるとおり、寒水川上流域には榎が多くみられます。例えば、寒水川の河川敷や溜池の畔、または農地に「榎畑」として数本が植樹されています。また山田地区では、「檀山」と呼称されているように、山腹の傾斜地にまとまって榎が植樹されています。榎が多く植樹されているのは、かつて榎生産が盛んであったことの証拠です。榎の実には榎成分が含まれているため、温暖気候の西日本を中心に、榎生産が約400年前から盛んに行われていました。現在は、中原駅の北側に、レンガ造りの煙突が目印の榎生産工場の名残を見ることができます。このように、風景的な価値や文化的な価値を有する榎ですが、近年はナチュラル志向の健康製品の原料や持続可能なエネルギー資源としても注目され始めています。

風天山 (宮山)



綾部八幡神社の裏には、脊振山系の尾根末端の地形を活かした山城がありました。その山が風天山(宮山)と呼ばれ、神社から10分程登ると、佐賀平野を望む絶景ポイントである頂上に至ります。

制作 協力 みやき町観光協会・東京農業大学
佐賀県・中原の豊かな自然を守る会
中山間地山田集落組合・みやき歩こう会
問い合わせ先 みやき町観光協会 TEL:0942-96-4208